

2026年2月 ニューデリー開催・現地レポート

INDIA AI IMPACT SUMMIT 2026

超知能へのカウントダウン

サム・アルトマン基調講演、インド戦略の全貌、そして**2028年問題**の深層分析



エグゼクティブ・サマリー：4つの重要ポイント



超知能 (ASI) の到来

2028年末までに、データセンター内の知的処理能力が人類のそれを上回る可能性がある。



インドが「世界のAIハブ」へ

OpenAIとTata Groupが提携。巨大インフラ (Stargate計画) と人材供給の拠点がインドへシフト。



全体主義 vs 民主化

計算資源の集中は「効果的な全体主義」を招く恐れ。IAEA型国際機関による監視が急務。



楽観論と警告の乖離

CEOたちは実装を急ぐ一方、研究者 (スチュアート・ラッセル等) は「警告灯は赤」と強く警鐘を鳴らす。

2028年予測：人類の知性を超える「特異点」

2028

2028: Superintelligence

「現在の軌道では、数年以内に超知能 (Superintelligence) の初期バージョンが誕生する」 — Sam Altman

Reasoning Models

GPT-4

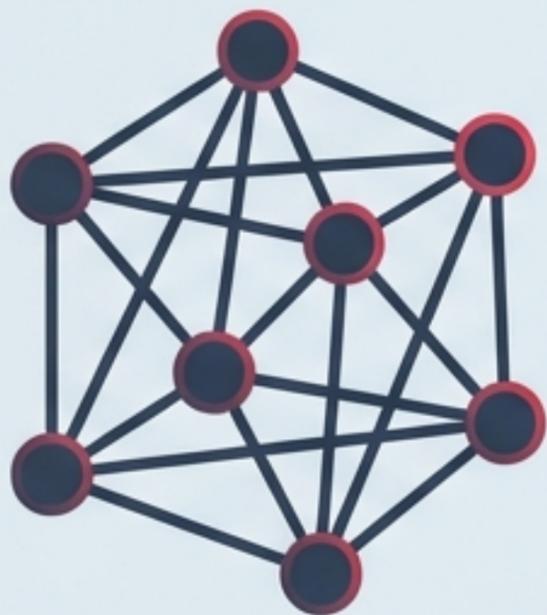
AI Capability

アルトマンによる 超知能の定義

- **経営判断:** 大企業のCEOよりも優れた意思決定を行う。
- **研究開発:** 最高レベルの科学者を超える速度と精度で成果を出す。
- **計算能力:** 世界の知的処理能力の大半がデータセンター内に収まる。

社会的岐路：エンパワーメントか、支配か

AIの民主化 (Democratization)



- 人類の繁栄を確保する唯一の道。
- 高品質な医療、教育、安価なサービスへの普遍的アクセス。

効果的な全体主義 (Effective Totalitarianism)



- 特定の国家や企業への計算資源・モデルの極集中。
- アルトマン氏の警告：「この技術が集中すれば破滅を招きかねない」

我々は今、権力を分散させるか、集中させるかの選択を迫られている。

ガバナンスの解：IAEA型国際監視機関の提唱

核管理（IAEA）をモデルとした、AIの国際的な監視・調整機関の設立。



Proposed Functions

- ✓ **計算資源の査察:** Compute（計算力）の集中状況をモニタリング。
- ✓ **安全基準の強制:** リリース前の安全性評価の義務化。
- ✓ **社会的レジリエンス:** AI生成病原体や紛争利用への対策。

Slate Navy

Context: 超知能が権威主義体制と結合するリスクや、新たな地政学的紛争を防ぐための「緊急の安全装置」。

経済・労働の変容：「GPU労働力」との競争

Key Insight:

「人間がGPUの労働力（コストと効率）に勝つことは非常に難しくなる」



- **デフレ圧力:** 製造・サプライチェーンの自動化により、あらゆる生産コストが劇的に低下。
- **雇用の破壊:** 既存の労働構造は崩壊するが、アルトマン氏は「より良い仕事が見つかる」と楽観視。
- **残る価値:** 人間関係、感情的交流、創造性といった「人間中心的」な領域へ価値がシフト。

戦略的ピボット：なぜ今、インドなのか？

AI開発の重心は、シリコンバレーから「世界最大のユーザー拠点」へ

1億人超:

週間アクティブユーザー数
ユーザー数 (ChatGPT)

3分の1:

ユーザーの30%以上が学生

No.1:

AIコーディングツール
「Codex」の最速成長市場

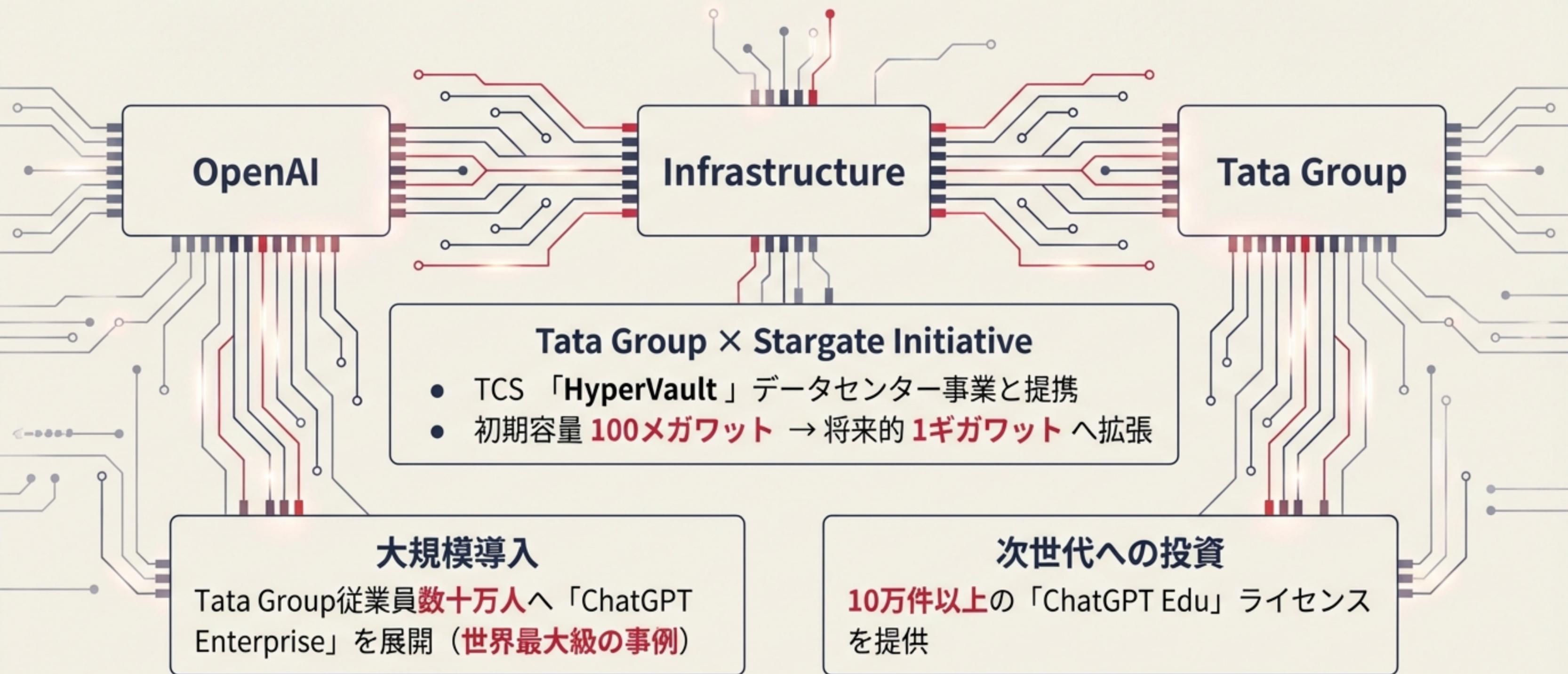
Mumbai

Delhi

Bangalore

「インドはAIを使うだけでなく、AIの未来を形作る重要なパートナー」

実行フェーズ：「OpenAI for India」 構想



競合の動向：Anthropicと「知能のムーアの法則」

Dario Amodei (Anthropic CEO)

- 予測: 数年以内にAIは**ほぼ全ての認知タスク**で人間を超える。
- リスク焦点: 「**経済的置換**」と「**悪用**」を懸念。
- インド戦略: ベンガルールに新オフィス開設、**Infosys**と提携。

VS

Contrast: アルトマンが「**繁栄**」を強調するのに対し、アモデイは「**混乱の管理** (Manage the dislocation)」を強調。

懐疑論と警鐘：「警告灯は赤く点滅している」



**「企業は全人類を対象に
ロシアンルーレットを行っている」**

— スチュアート・ラッセル教授 (UC Berkeley)



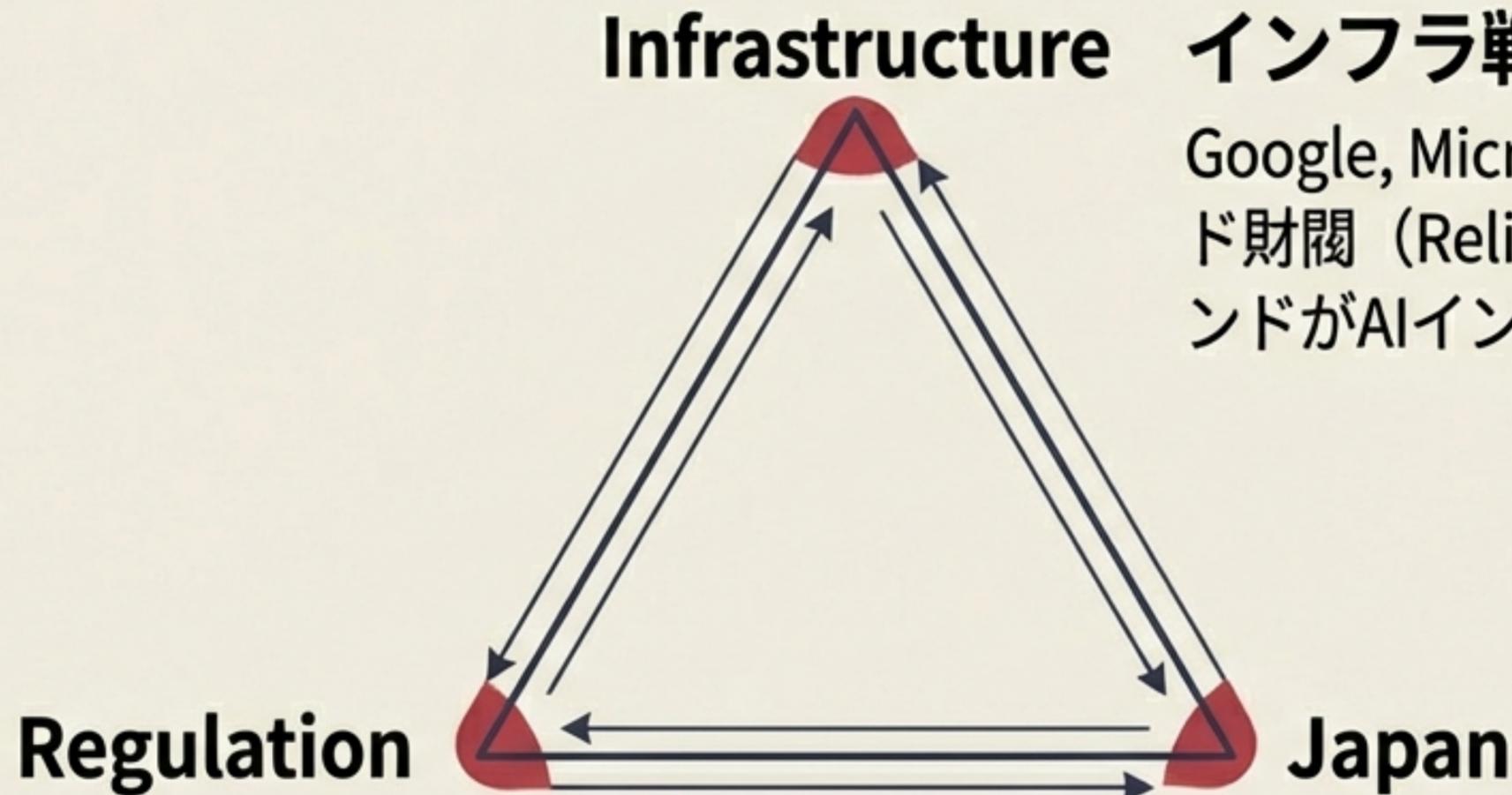
The Skeptics

- **IBM幹部**：「2028年説は完全な誇張」。AIは効率的な学習能力において人間に遠く及ばない。
- **スチュアート・ラッセル**：政府の義務放棄を批判。

The Credibility Gap

- 資金調達のためにゴールポスト（予測時期）を動かしているのではないかという批判も存在。

地政学的含意と日本への示唆



インフラ戦争の新局面

Google, Microsoft, Metaに加え、インド財閥（Reliance, Adani）も参戦。インドがAIインフラの世界的集積地に。

規制の分断

トランプ政権（規制緩和） vs 国際的な安全網（**IAEA型**）の綱引き。

日本の課題

- 開発重心のアジアシフト（インド）への対応
- IAEA型機関設立時のルールメイク参加
- 独自の知的財産戦略の再構築

結論：「反復的展開」と社会的レジリエンス

技術の進化は不可避だが、その結果は可変である。我々は「社会的レジリエンス（耐久力）」を高めながら、段階的に適応していくしかない。

**「我々是人々にエンパワーすることを
選択しなければならない」**

2028年というタイムリミットに向け、ガバナンスとインフラ整備が同時に加速する。